

(財)日本ユニセフ協会佐賀県支部通信 第13号 2007年6月

事務所：〒840-0054 佐賀市水ヶ江4丁目2-2 TEL/FAX 0952-28-2077

e-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp

URL <http://www2.odn.jp/unicef-saga/>

\$\$\$ 支部通信はホームページでもご覧いただけます

ソロモン諸島地震・津波緊急募金にご協力ありがとうございます

～ユニセフ、地震発生直後より、緊急援助を開始～

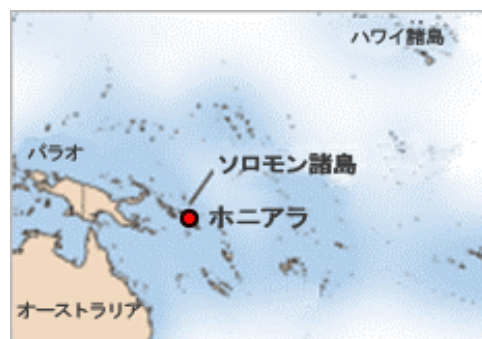
2007年4月2日に南太平洋ソロモン諸島を襲ったマグニチュード8.1の大地震と津波により、多くの島で被害が発生しました。地震・津波の直接的な被害を受けた人は1万人以上。多くの家族は家屋だけでなく、生活手段（漁業、野菜農園）をも失い、避難生活を送っています。

ユニセフは、地震発生の直後から、1万人分の緊急医療物資を送り、支援スタッフを現地に派遣しました。

ユニセフの活動は主に、保健、栄養、水と衛生、教育、子どもの保護に焦点をあてて実施されています。ユニセフは、当初の50万米ドルの支援要請に追加して、初期の復興支援活動費用として130万米ドルの支援を国際社会に要請し、支援活動を継続しています。



© Solomon Islands' Ministry of Health/Ogaoga



ユニセフが配布している支援物資 (5月7日時点、計画中含む)

家族用テント	250 張
スクール・イン・ア・ボックス(教育キット)	80 セット
レクリエーションキット	144 セット
防水シート	172 枚
折りたたみ可能な家庭用貯水タンク	4,450 個
大型の貯水タンク	5 基
病院用の緊急保健キット	8 キット
下痢による脱水症状から子どもを守る経口補水塩	3 万袋
ビタミン剤	9 万袋
石けん	6,500 個



© UNICEF Fiji/2007/McCauley
ギンズに設置された「子どもにやさしい空間」5月7日までに被災した3つの島に20箇所を設置され、5月14日までにさらに10箇所を設置予定です。

ユニセフの主な支援活動

【保健と栄養】

- ・ 5歳未満の**15,000**人の子どもたちを対象にはしかの予防接種キャンペーンを実施
- ・ ビタミン**A**の投与。また、予防接種記録カードがない一歳未満の子どもには新規にカードを発行し予防接種を実施
- ・ 妊娠中の女性に総合ビタミン剤を提供。また、**6**カ月～**59**カ月の子どもには総合微量栄養素を配布
- ・ 緊急医療キットと**3**万人分の医薬品を供給
- ・ 保健医療省や関係機関を支援し、日常的な予防接種を含む基礎保健ケアサービスの建て直しを図っている。さらに、避難民キャンプの子どもたちへの家庭内でのケアを推進し、子どもと母親の栄養向上のための必要な措置をとるよう支援する

【水と衛生】

- ・ 地方水・衛生局を支援し、被災者への水と衛生サービス状況の調査および復旧作業を行う。また、約**3**千の国内避難民に対し、水・衛生サービスを供給する
- ・ 避難民キャンプのトイレ建設のため、**1**日あたり**10**基の新トイレの設置を目標に、実施計画の策定および初期建設を支援。
- ・ 石鹼、バケツ、浄水剤、建設資材（木材、道具、プラスチック）を西部地域およびチョイセル州の地方水・衛生局に提供

【教育と子どもの保護】

- ・ 政府や**NGO**などと協力し、子どもたちが安心して遊び、また勉強ができる場所（子どもにやさしい空間）の設置を支援。又、仮設の「子どもにやさしい空間」のため、防水シートとテントを調達する。
- ・ 「子どもにやさしい空間」では子どもたちは精神的なサポートを受けられるようにし、また、子どもを中心とした復興計画およびバック・トゥ・スクールキャンペーン（「学校へ戻ろう」キャンペーン）を展開
- ・ レクリエーションキット、スクール・イン・ア・ボックス（教育キット）のほか、人形や楽器などの遊び道具を提供。**1**千人以上の子どもたちが、毎日、子どもに優しい空間を利用している。また、学校キットには**3**千人分の子どもたちの教材が含まれている
- ・ 子どもに対する搾取や虐待の危険性が高まっていることに対し、地域に注意を呼びかけている

ありがとう！



コランバンガラ島のクジ村に、レクリエーション・キットが届きました。レクリエーションキットには、ハンドボールやバレーボール、バスケットボール、フリスビー、縄跳びの縄などの遊び道具が入っています。キットが到着して、子どもたちは目をらんらんと輝かせ、喜んでいました。このほか、ノートや鉛筆、チョークや教材なども届きました。友達と勉強したり、遊び場で遊んだりすることで、日常が戻りつつあります。

子どもたちの笑い声が響くことで、地域も少しずつ元気を取り戻すことができるようになります。

【資料提供：(財)日本ユニセフ協会】

世界の子どもたちは、今

<スーダン共和国>

～ダルフールの子ども兵士解放に向けて一歩前進～

【2007年6月15日】



UNICEF/HQ05-946/Ron aviv

スーダン解放軍の兵士を見つける子ども
(北ダルフール・エルファシ)



- ・面積
250 万平方キロメートル
(日本の約 **6.6** 倍、アフリカ大陸最大)
- ・人口 **3,552** 万人 (2004年)
- ・首都
ハルツーム (人口約 **494** 万人)
以上、外務省HPより
- ・5歳未満児死亡率 **90** (日本は4)
- ・1人あたりの **GNI** (国民総所得)
640 米ドル(日本は **38980** 米ドル)
以上、**unicef** 世界子供白書 **2007** より



UNICEF/HQ06-0586/Shehzad Noorani

南ダルフールのニヤラで学ぶ子どもたち
ユニセフは教科書を提供しました

- ・ダルフールの現状：(2007年4月時点)
- ・国内避難民の数：200万人 (内100万人は子ども)
- ・2007年1月以降新たに避難民となった人の数：8万人
- ・5歳未満の子ども推定75人が毎日病気など様々な要因で命を落としている
- ・5歳未満の死亡原因の3割は下痢性疾患による
- ・小学校就学率：63% (2006年) 47% (2005年)
- ・清潔な水を使うことのできる人の割合：73% (2006年) 63% (2005年)

2006年のユニセフの主な活動の成果

スーダン解放運動/軍 (SLM/A) がダルフールの武装グループに関係している子ども達の引渡しを開始すると発表したことについて、ユニセフは6月11日、歓迎の意を示しました。ユニセフは今回の合意に先立ち SLM/A と数ヶ月間交渉を続けてきました。SLM/A は、南北ダルフールで武装グループに所属している多くの子どもたちを既に特定しているといい、全ての子どもたちを正式に特定するプロセスは来月から開始される見込みです。

ユニセフと SLM/A が署名した合意では、SLM/A が武装グループに所属している子どもたちの場所を一ヶ月以内に特定し、SLM/A と国連が合同で確認をすることを約束しています。ユニセフは、政府や地元・国際 NGO と協力しながら、家族との再会やコミュニティへの復帰を支援するプログラムを実施し、同時に SLM/A の現場指揮官へ子どもの権利や保護基準についての研修を行います。解放された子どもたちはライフスキル研修や職業訓練の機会が与えられ、教育の支援を受け、レクリエーションやスポーツ、キャリアガイダンスなどの心理社会活動に参加するとともに、ソーシャルワーカーの支援で社会復帰プロセスの間、子どもたちを観察・フォロー

一します。

紛争地での調査が困難なため、ダルフルの武装勢力に所属している子どもたちの正確な数ははっきりとわかっていませんが、ユニセフは約 7,000 人の子どもたちが武装勢力の中で、戦闘員や、運搬・料理・使者・護衛などの補助的な役割についていると推定しています。

ユニセフスーダン事務所代表のテッド・チャイバン氏は言います。「SLM/A との今回の合意は、プロセスの始まりにしかすぎません。子どもたちがきちんと特定され、適切な再統合プログラムが運営されるようになるまでには時間がかかるでしょう。しかし、この合意を子どもたちのための具体的で現実的な行動へ移し、他の武装勢力も所属している子どもたちの解放に合意することを期待しています。このような子どもたちはダルフルの中でもっとも弱い立場に置かれています。彼らは家へ戻り、子ども時代を取り戻す機会が与えられなければいけません。」

<教育>

192 のレンガ・セメント・石造りの教室、及び 2,096 の竹やわらなどでできた教室の建設・修復を支援し、124,585 人の児童が新たに学校に通えるようになりました。71,000 人の女の子に制服を支給しました。450,038 人の子どもたちのために教科書や教材セット・レクリエーションキットが提供されました。

<保健・栄養>

5 歳未満の子ども 130 万人がポリオの予防接種を、9 ヶ月～15 歳までの子ども 170 万人がはしかの予防接種を受けました。

紛争の影響を受けた人々でアクセス可能な人々の 69%に基礎保健ケアサービスを提供しました。

アクセス可能な保健施設の 8 割に出産キットの提供や、保健員の研修などの支援をおこないました。

深刻な栄養不良の 5 歳未満の子ども 毎月平均 1,000 人に対して治療用ミルク、備品、薬を提供し、中度の栄養不良の子ども 毎月平均 4,500 人に対して備品や薬を提供しました。

<水と衛生>



110 万人の人々が継続的に水を使えるように支援し、2006 年は 202,000 人が新たな給水設備によって水が手に入るようになりました。

290 の学校と 70 の保健施設に衛生施設（トイレ）が設置されました。

←ユニセフが支援した井戸から水を汲む人々（西ダルフル・エル・ジェナイナ郊外）

© UNICEF/HQ06-2208/Georgina Cranston

<子どもの保護>

アフリカ連合スーダン派遣団の部隊 2,736 人に子どもの権利と保護に関する研修を行いました。

「子どもにやさしい空間」での遊びやレクリエーション活動を 183,000 人に提供しました。

学校に通う 67,000 人の子どもに心理社会支援を提供し、2,700 人の教員に心理社会問題についての研修を行いました。

85,000 世帯に燃費の良いストーブの使い方の研修を行い、あわせて識字研修や地域のエンパワーメント、職業訓練もおこないました。武装勢力から 500 人の子どもの解放を支援し、内半数は学校に通っています。

ボランティア 団野 そのこさん (佐賀市)



ずっと何かしなければいけない、何かしたいと思っていてもあと一歩がふみだせなかった私。子どもが生まれてからは、恵まれない子どもたちのことが特に気になっていました。

でも具体的に何をしたいかわからず(行先不明の募金をする気にもなれず)、その理由を、小さな子どもがいて忙しい、大変だと自分に言いきかせていました。けれどもその子どもたちもだんだん手がかからなくなり、さて、何か私にできることは…?

そう模索していた時に、「ユニセフでボランティアしない?時間がある時だけ、自分のできる事だけでいいから」と声をかけていただきました。そう世界の子どもたちのために!まだお手伝いを始めたばかりで、あまりお役に立っていないのですが、他のボランティアのみなさんから「ありがとう!」と声をかけていただいたり、色々なお話を聞かせていただいたり。私の方こそありがたい気持ちでいっぱいです。それと同時に、私たちの想像を超える、過酷な環境の中で、生きている子どもたちがなんと多いことか、ということをもっともっと日本の子どもたちに知って欲しいと思います。

かつどう ほうこく



- ◎ 4月1日(日) エコマーケットにてユニセフミニバザー (佐賀市エコプラザ)
- ◎ 4月19日(木) 20日(金) 日本ユニセフ協会地域組織全国事務局長会議 (東京 ユニセフハウス)
- ◎ 4月22日(土) 第22回花みずき茶会(小倉宗厚主宰)にてパネル展 (佐賀市金立山いこいの広場)
- ◎ 5月3日(木) 第104回有田陶器市会場にて募金活動&ユニセフグッズ頒布(今右衛門古陶磁美術館前)



各地からの買い物客 20万人の人出で賑わう今右衛門古陶磁美術館前で「ソロモン諸島地震・津波緊急募金」とユニセフグッズの頒布を行いました。今年も元気な佐賀大学の学生さんたちがボランティア参加くださり、ソロモン諸島地震緊急募金への協力やユニセフグッズへの協力を呼びかけました。

佐賀大学生ボランティアの皆さんの声

- ☆ 「子どもたちのために…」とお願いをしていたけど、募金をもらったときは嬉しくて今日の募金活動は「自分のため」になりました。
- ☆ 今日この活動に参加していなかったら家でぼんやりと一日をむだに過ごしていたと思うけど、たいへん貴重な体験をさせていただいて来てよかったです。
- ☆ 募金活動は初めての体験でした。今まで募金箱にお金を入れたことはあったけど、募金箱を持ってお願いしたことはなかったです。逆の立場にたって、お金を入れてもらうことがどんなに大変なことかよく分かりました。その分、お金を入れてもらったときはとても嬉しかった。これからは、募金活動があってもっと協力しなくては…と思いました。

◎ 5月12日(土) 第14回母の日ユニセフチャリティーバザー (佐賀玉屋デパート南館西側アーケードにて)
テーマ <10,000人の子どものポリオ経口ワクチンを>



会員さん・支援者の皆様から 400点余りのバザー品をお預かりしました。オープンと同時に押すな押すなの大盛況。売上総額は 15万 2700円にもなりました。バザー品を快くご提供くださった皆様、送料までご負担いただいで宅急便で送ってくださった皆様、企業や団体でバザー品集めに取り組んでいただいた皆様、仕分け・値付け・販売など色々な形でお手伝いくださったボランティアの皆様、そしてお買い上げくださった多くのお客様、会場をご提供くださった佐賀玉屋デパート様、ありがとうございました。

◎ 5月20日(日) ユニセフグッズの頒布&ユニセフの活動の紹介 (唐津市虹の松原広場)

第38回『青年の日』第13回チャリティーフェスティバル～愛を集めよう 愛を届けよう～は、ユニセフの「アジア4カ国における初等教育普及事業」・地域社会福祉協議会への賛助・NPO/NGO 団体支援のために実施され、バザーや佐賀県内外7つのNPO/NGOの活動紹介、バンド演奏等があり賑わいました。

◎ 5月24日(木) 佐賀郡東与賀町東与賀中学校3年生事務所訪問 (事務所に)



総合的な学習の時間～Search for Life～に途上国の子どもたちのことについて、またユニセフについて調べるために事務所を訪問されました。脱水症から命を守る経口補水塩やマラリアを運ぶ蚊から家族を守るための殺虫処理をほどこした蚊帳などの値段が、自分のお財布から出せるくらいのお金で買える事を知り驚いていました。

学習を終えて

- ☆ 子どもたちがタバコ工場で働いたりカーペットを織ったりして、学校に行けないことを初めて知った。「働く子ども」についてもっと詳しく調べたい。
- ☆ 少しのお金で子どもたちの命を助けることができるということが分かった。これからは募金活動に参加しようと思った。「児童労働」という言葉を初めて聞いたのでこのことを詳しく調べたいと思う。

◎ 5月27日(日) 第23回鹿島ガタリンピック会場にてユニセフパネル展 & ユニセフグッズ頒布
(鹿島市七浦海浜スポーツ公園)



絶好のガタリンピック日より恵まれた広大な有明海の干潟で、第23回鹿島ガタリンピックが開催されました。19の国や地域から集まった1,500人の選手が全身ドロンコになって競技を楽しみました。会場は35,000人の観客で終日賑わいました。

ボーイスカウト鹿島第1団・伊万里第1団・白石第1団の皆さん、それに嬉野高校3年生の皆さんが募金箱を抱えて会場をまわり、ユニセフ募金への協力を呼びかけました。ミニバザーへのご協力と募金箱へのご協力を合わせて20,989円になりました。ボランティアの皆様、募金にご協力くださった皆様、ありがとうございました。

◎ 5月28日(月) 佐賀銀行「書き損じはがき・使用済み切手」贈呈式 (佐賀市佐賀銀行本店)



佐賀銀行では各支店の窓口に黄色の「思いやりBOX」を置き、書き損じはがきと使用済み切手の回収をお客様に呼びかけておられます。

寄せられたはがきと切手を三等分し、NPO法人地球市民の会・佐賀ユネスコ協会・日本ユニセフ協会佐賀県支部の三団体に寄贈されました。

◎ 5月29日(火) コープさが募金贈呈式 (佐賀市文化会館)



- ☆ お年玉の一部です。役立ててください。
- ☆ お正月にもらったお年玉を2千円ばきんします。しあわせになれるようにつかってください。
- ☆ 皆さんが一日でも長く生きられますように。幸せになれる日を祈っています。
- ☆ 子どもにお年玉から100円ずつ募金をさせました。世界の子どもたちへ…。
- ☆ 東ティモールの子供たちへ…真心をこめて！
- ☆ もらった優しさを人にあげる、そんな世界に。



コープさが生活協同組合2007年度第17回通常総代会の席上において、日本ユニセフ協会佐賀県支部の太田記代子常務理事に「東ティモール指定募金」が贈呈されました。コープさが生協では、九州の生協と一緒に2004年度から「東ティモールの女性と子どもたちのための識字教育能力開発プロジェクト」を支援しておられます。組合員の皆様から寄せられた546,147円もの募金は東ティモールの女性と子どもたちのために役立たせていただきます。

◎ 6月2日(土) 財日本ユニセフ協会佐賀県支部役員会

(佐賀新聞社会議室)



第7回理事会・第4回評議員会を佐賀新聞社会議室において開催しました。

‘06年度の事業並びに決算を承認していただき、‘07年度の事業計画・予算・役員について協議され建設的なご意見をいただきました。ユニセフ支援の輪を広げるための‘07年度の最重点課題として「会員増とボランティアスタッフの強化」が確認されました。

◎ 6月3日(日) ユニセフ出前授業 ～共に生きる、世界の子どもたちと～ (佐賀市立鍋島中学校にて)

3年生(236名)の皆さんは、総合的学習の時間に「社会のために、そして人のために役立つような課題追求を行い、情報を発信しよう」のテーマのもとに学習をしています。今回は課題作りの為の出前授業でした。人口クイズから食糧分配ゲームへと繋げ食糧問題への気づきになるようにしました。さらに、ビデオなどを通して栄養の足りない子どもたちの他にも、様々な困難な状況下で生きている子どもたちがいることを紹介して問題提起としました。フリー参観日でしたので保護者の方々にもご覧いただきました。

学習を終えて

☆ 私が最初に感じたことは「私は本当に恵まれている」ということです。日本という国に生まれた私は、あたり前のように学校に通い、あたり前のように勉強しているけど、決してこれはあたり前ではないと分かりました。世界中には様々な状況の中の子どもたちがいます。



生きていくために働かなければいけない子どもたちのことを「かわいそう、大変そう」で片付けてはいけなくて強く思いました。地球人の一人として私に何ができるのか、それを考えることが大切だと思いました。そして、どんなに小さなことでもいいから、自分にできる行動を起こすことが、世界中の人と共に生きていくということではないかと思いました。

◎ 6月10日(日)「イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン」品物贈呈式 (ジャスコ大和大和店にて)

毎月11日のイオン・デーには、地域のボランティア団体などの名前と活動内容を書いた投函BOXがお店に置かれています。この日に、買い物をし、レジ精算時に受け取った黄色いレシートを応援したい団体の投函BOXへ入れると、購入金額合計の1%が地域ボランティア団体などに希望する品物で寄贈されます。



佐賀県支部でも、ユニセフのBOXを用意していただき、皆様にご支援をお願いしております。おかげさまでA4コピー用紙5500枚寄贈されました。事務局では、そのコピー用紙の代金分を募金とさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

募金でできる支援例 2007

2007年1月現在の価格 1米ドル=116円で計算 (小数点以下四捨五入)



2円でビタミンA欠乏症やはしかによる合併症を予防・治療するための、ビタミンAカプセル1錠。



6円で急性の下痢による脱水症から子どもの命を守る経口補水塩1袋。安全な水と混ぜて使用する。



16円でポリオ経口ワクチン1回分

少額のお金でも皆様のお気持ちが集まれば大きな支援になります。

ご支援・ご協力ありがとうございました

佐賀市北部児童センター子どもまつり実行委員会様 ハートフリーミノリ様 鳥栖中学校福祉委員会様
花みずき茶会主宰小倉厚子様 コープさが生活協同組合様 吉原内科様 田口電機工業株式会社様
カイセイ薬局荒江店様

国際ソロプチミスト佐賀フレンズ様 国際ソロプチミスト佐賀有明様 佐賀リコー様 本庄公民館様
ボランティアキルターズピースワーク様 ローソン佐賀大学前店様 立正佼成会佐賀教会様 共生会様
㈱久原水産研究所様 ワークステーション SAGA 様 雇用能力開発機構佐賀センター様 イ・ニーズ様
住友生命佐賀支社様 引学館様 味真野公民館様 ㈱山二商会様 佐賀県総合看護学院様
さが市民活動プラザ様 佐賀市国際交流協会様 梅津歯科様 大塚製薬佐賀工場環境安全課様

(有)勤労者トラベルセンター様 リフレイン様 野中商事様 ジャックス様 (2007年3月18日～6月20日)

*様々な形でのご支援ご協力を感謝申し上げます。個人のみなさまからもたくさんのご支援を頂いていますが、平成17年4月1日からの「個人情報の保護に関する法律」施行に伴い、個人の方のお名前の掲載は控えさせていただきます。

2006年度佐賀県支部扱いユニセフ募金のご報告

2006年4月1日～2007年3月31日

総額 4,781,697 円

内 訳

- ・ 通常募金 (ハンド・イン・ハンドを含む) **3,412,889 円**
この中には使用済み切手・インクカートリッジ、書損じはがきなどの換金による募金、**226,324 円**も含まれます
- ・ ジャワ島地震・津波緊急募金 **905,927 円**
- ・ カンボジア指定募金 **24,500 円**
- ・ 東ティモール指定募金 **438,381 円**



© UNICEF/2007

スーダン：村人の命をつなぐ井戸

南コルドファン州の村にユニセフの支援でできた手押し式の井戸：新しい手押し式井戸で水を汲むサラフ・アデイ村のセルマさん（14歳）
ユニセフの支援で村に井戸ができるまで、毎日、母親と遠くまで水くみに行かなければならず、学校に行くことができませんでした。

☆☆ たくさんのご支援ご協力ありがとうございました。☆☆

日本ユニセフ協会に 2 人目の大使誕生

(財) 日本ユニセフ協会は、2007 年 4 月 9 日、日野原重明氏（1911 年 10 月 4 日生山口県出身）をアグネス・チャン氏（1998 年 4 月 6 日に就任）に続いて 2 人目となる日本ユニセフ協会大使に任命しました。



©日本ユニセフ協会



©日本ユニセフ協会

「野球で言えば『9 回』ですが、私の一番大切な人生がこれから始まります・・・」 日野原大使

私が医者になったのは、丁度 70 年前。最初に看取った患者さんは、16 歳の女の子でした。結核の患者さんだったのですが、化学療法がまだ無かったので、彼女は治療を受ける事無く亡くなりました。その子に対する気持ち、そして、その後私自身も結核を患い、患者さんの気持ちを実感することができました。6 年半前に「新老人の会」を旗揚げしました。シニアの人々が持っているポテンシャルを、後世の人々に伝えてゆくこと、モデルを示してゆくこと、子どもたちに「いのち」というものを教えて行くことを目的としています。子どもたちのいのちが損なわれないように、そうしたいのちが、社会のために有益に使われるようになるためには、私たちは世界中を見渡さなければなりません。いろんな意味でハンディキャップをもっている子どもたちを救わなくては、5 歳までに 1000 万人が命を落としているという恐るべき現実を変えてゆかなくてはなりません。故に、「新老人の会」の活動の究極の目的は、子どもたちのいのちを守る事。子どもたちの未来を守るための平和を創ってゆくこと。そのように思っておりました。

そこに、今般、日本ユニセフ協会大使のお話を頂きました。ですので、私の大使としての活動は、とにかく子どもたちの為に可能な限り献身することと思っています。今私は 95 歳と 6 ヶ月になります。野球で言えば「9 回」です。普通なら勝負はほぼ決まっているはずですが、私は、この「9 回」から、私の一番大切な人生が始まると思っています。9 回を過ぎて 15 回位まで、ピッチングをやったり、打撃をやったりということは、全て子どもたちのためであると。そのためには、更に睡眠時間を削ってでも頑張りたいと思います。新老人の会の皆さんにも、日本の子どもたちにも、そして今日ここにお集まりのメディアの皆様にも、世界の子どもたちを守るユニセフのキャンペーンへのご参加をお願いしたいと思います。

先生の大きな愛や知識を子どもたちのために・・・黒柳徹子さんからのメッセージ

日野原先生、日本ユニセフ協会大使にご就任とのうれしいニュース！ついこの間、100 才まで仕事するには、どうやればいいのか、教えて頂いたところでしたね。先生も、95 才から全くやったことのないゴルフをおはじめになり、これまで使ったことのない脳や体をつかって、生き生きと、新しく歩き出した、とおっしゃいましたね。ユニセフは、子どものために働く所ですが、先生のお持ちの大きな愛や知識を、世界の子どものためにお使い頂くこと、すばらしいと思います。どうぞよろしく願いいたします。心から拍手お送りいたします。

【資料：日本ユニセフ協会】